

インターネット上のラジオ放送中のCMを用いてリスニング活動をスパイス・アップ！

—オーセンティックなリスニング教材を求めて—

英語科 横野 健二

大学入試センター試験への英語のリスニング・テストの導入を機に、それまではごく希少であった高校生向けの英語のリスニング教材が数多く出版されるようになった。しかし、発話のスピードが遅いこと、発声が常に明晰で、発音が細部まで実に丁寧であることなど、聞き取るべき英語の音声には、やや不自然な要素が含まれている。高校生にも分かりやすく、なおかつ教材用に加工されていない、つまりオーセンティックなリスニング活動用の素材を模索する中で、インターネット上のラジオ放送のCMや広報を教材化し授業で利用することを試みた。実施した回数が少ないので、生徒の聞き取り能力をどの程度高めているかは不明であるが、少なくとも英語のリスニング活動に対する生徒の意欲付け・動機付けを維持し強化する効果は期待できることがわかった。生徒に対するアンケート調査においても、市販のリスニング教材よりもCMや広報を素材とした活動の方を支持する結果が出ていた。

キーワード：インターネット リスニング活動 教材開発 オーセンティック教材

1 はじめに

本稿は、授業中のリスニング活動をより活性化するための一つの試みとして、インターネット上のラジオ放送のCMや広報を教材として利用した活動の実践報告である。それはまたリスニング活動にも、できるだけオーセンティック (authentic) な教材を導入しようという試みの一つでもある。

2 英語のリスニングを巡る一つの流れ

2-1 センター試験へのリスニングの導入

平成18年1月、英語教育に大きな変革をもたらした一つの『事件』が起こった。大学入試センター試験に英語のリスニング試験が導入されたのである。思えば、ここに至るまでは長き道のりであった。平成6年度より実施の学習指導要領によって、すべての高校生に対して「オーラル・コミュニケーション」という科目が必修となった。高校での英

語教授における、英語で「話す・聞く」能力の育成の重要性が明確に示されたわけである。しかしそれにもかかわらず、その学習の成果が、少なくとも大学入試という場面で試される、いや有効に利用されることは極めて少ないままであった。それ以前から、入試の英語の問題としてリスニングを出題する大学は少なかったが、「オーラル・コミュニケーション」という必修科目の導入によってもその状態は大きく変わることはなかった。現実に国公立大学の中で、平成18年度入試以前から全学体制で英語のリスニングを入試に取り入れていたのは、東京外国語大学などの、ごく少数の外国語専門の単科大学以外では、東京大学と一橋大学くらいで、他の大学では、まったく取り入れていないか、せいぜい外国語学部・文学部英米文学科・教育学部英語専攻などの、一部の学部・学科の志願者に絞った形で実施している程度であった。そもそも、大学入試センター試験

自身が、実際の音声によるコミュニケーションを直接の出題内容としていなかったこと自身が、極めて象徴的であった。

そのため、至極当然のことではあるが、高校生を対象としたリスニング教材は、皆無ではなかったものの、実に少なかった。もちろん「オーラル・コミュニケーション」の教科書にはリスニングの活動が盛り込まれてはいたし、他方、直接の大学入試対応用としては、旺文社の大学入試問題正解リスニング編があり、また東京大学の入試対策としては、川合塾や駿台予備校の出版する、過去の模擬試験を冊子化した問題集があり、そこにはリスニング問題も収録されていた。しかし、「文法」「英文読解・英文解釈」「英作文」の各分野、そしてサイド・リーダ的な読み物に関しては、実に多種多様な教材が出版されており、非常に初歩的なレベルのものから、高校の学習内容のレベルを超えかけていると思われるものまであったこと比べると、リスニング用の教材は実に少なかった。

そのような教材不足の中、リスニングの指導のために採用されたのは、英語検定用の問題集であり、一般の(=大人の)学習者向けのリスニング教材であり、主に海外で編集された外国人学習者向けのESL (English as a Second Language) 教材であった。もっとも、英語検定用の問題集自体それほど種類が多いわけではない。また一般の学習者向けやESL教材の場合には、高校生に購入させるにははなはだ高価である場合が多く、またどのようなものが出版されているかを知ることすらそれほど簡単ではなかった。

2-2 市販の教材の問題点

大学入試センター試験への英語のリスニング試験の導入を睨んで、その2年ほど前から各出版社が競うようにリスニング教材の出版を始める。どの出版社も基本線は同じである。レベル別に2~3段階に

分かれたシリーズ型教材で、CDとのセット販売。基本的に短い対話や物語・文章の読み上げを中心に構成されており、解答方法は多肢選択形式が中心で、一部短い英語や日本語での記述型の問題も含む。また、絵や図や表などの視覚的な素材を組み合わせたものも含めている。

それらの教材用に収録された音声教材にもいくつか共通した点が見られるようである。それらは学習用に編集された音声教材が宿命的に持つてしまうものかもしれないが、そのいくつかをここで取り上げてみる。

話す速度は遅めである。

私が現在授業で使っている「[spark]リスニング・テスト入試 Level 1」および「Level 2」(数研出版)、そして比較用に「Hyper Listening Intermediate」(桐原書店)を取り上げ、それぞれ三つの課の発話の速度を計算してみたところ、「[spa:rk]」シリーズの場合には124~145wpm (words per minute)、「Hyper Listening Intermediate」の場合には120~132wpmであった。(「資料1」参照)

私が以前に読んだ英語の母語話者向けの速読の教本には、母語話者の平均的な発話スピードは150wpmであると書かれていた。それを1つの目安として考えると、上記のリスニング教材が生徒に聞かせる英語は、「いくぶん遅い」、場合によっては「かなり遅い」に分類されるだろう。なお2007年度のセンター試験リスニングの第3問Bおよび第4問Bの部分の発話速度も計測してみたが、そちらの方が遥かに速かったことを付け加えておきたい。(「資料1」参照)

また更なる比較のために、私が昨年度に使用した英語Ⅱとリーディングの教科書である「Sunshine English Course II」(開隆堂)と「Genius English Readings」(大修館)および現在使用している速読

用教材「Sonic Reading 4」の、それぞれの付属のCDの本文音読部分の速度も計算してみた。収録された発話または音読の速度の違いは、読解用かリスニング用かといった教材自身の目的よりも、むしろ出版社や個々の吹込者の個性の反映のように思われ、私には興味深かった。（「資料1」参照）

発声・発音は常に丁寧且つ明晰である

おそらくどのリスニング教材にも当てはまることだが、発声が細部まで明晰で丁寧であり、声の強弱や発話の速度も概ね一様に保たれている。部分的に早口になったり、小声になったり、まして口籠って聞き取りにくくなったりすることはまずない。もちろん、弱音化やリエゾンなどの音の変化は起こっているが、非常に規則的というか、教科書的に行われている感じがする。

また、話し手の個人的な発声・発音の癖による聞き取りにくさなどが極力生じないよう配慮されているという印象も受ける。それらの教材において子供や老人の声が収録されることほとんどないし、多少なりとも訛りを含む発音を聞くこともほぼ皆無である。徹頭徹尾、明晰な発声による標準的な発音で埋め尽くされているといえれば言い過ぎか。

なお、ESL教材の中には、発音の個人差をむしろ意識的に取り入れていると思われる教材もあることが好対照である。

やや平板で無機質な原稿読み上げ口調になりがちである

上で述べたような明晰な発声と丁寧な発音を重視すると必然的にこうなってしまうのだろうか。文章や物語はもちろん、日常的な会話を取り上げている場合においても、原稿を読み上げている感じが漂っている。落ち着いた口調ではあるが、感情表現に乏しく、また口調が常に一定なので、いささか平板な印象を与えかねない。意識的に感情表現を音声に含

めているものもあるが、わざとらしさの方が強く感じられてしまう。

加えて、吹込者の音声以外の音が合わせて録音されている場合は稀である。現実の英語の聞き取りの場面では、周囲の他の人の声や物音が自然なノイズとして同時に聞こえる。またテレビやラジオなどの場合は、演出用の効果音やBGMを伴っている場合の方が多と思われる。しかし高校生対象のリスニング教材では、基本的にそれらが消去されており、スタジオで原稿を読んでいるという印象が補強されている。会話やインタビューの聞き取りの教材では、場面に相応しい効果音やBGMが録音されている場合もあるが、聞き取るべき吹込者の音声に被さらないように音量調整されている気がする。

結局のところ、英語の聞き取りが苦手な高校生を対象としている以上は、ある程度聞き取りやすくしなければならないだろう。また、聞き取り教材としてだけでなく、英語の発音のモデルの意味合いも兼ねているとすれば、できるだけ標準的な発音に則った音声教材にならざるを得ないだろう。ただし、それら学習教材用に加工された教材だけで、十分なのだろうか。母語話者を対象とした英語の音声素材も同時に用いることで、学習者が学習意欲を掻き立てられる側面はないのだろうか。

3 インターネットという教材ソース

インターネットが英語教育に対して、多くの新たな可能性を開いてきたことは言うまでもない。様々な英文素材の宝庫であり、またメール文通などによる国外の高校生との英語での意思伝達の活動は、すでに多くの実践例がある。一方、音声・動画形式の情報に関しては、初期のアーカイブよりのオン・デマンド型配信に加えて、ストーリーミング技術によるライブ配信も当たり前のことになり、BBCやCNN以外にも、大小多くの放送局がインターネッ

ト上で放送を行っている。これを教材として利用できないか。

3-1 インターネット上のラジオ放送のCM・広報

インターネット上では様々なラジオ局が番組をライブ配信している。BBC, CNNのような全国規模・世界規模のものもあれば、アメリカのトーク・ラジオのように、一州対象の小規模のラジオ局もある。そして、当然ながら民間の放送局ならば、番組の合間にCMが流れるし、市や州の広報が流されることもある。番組そのものは、語彙や背景知識の不足により、日本の高校生が聞いて理解するのは困難だろう。また適度な長さの教材になるかどうかも疑問である。しかしCMや広報ならば何とか教材化できそうである。

CMや広報は、そのほとんどが30秒～1分という短さであり、また伝えようとするメッセージが基本的に1つで、何を聞き取るべきかが明確なリスニング素材になりうる。聞き取るべきは、CMならばどんな商品の紹介かであり、広報ならば何を訴えているかである。一方、そのような性質にもかかわらず、伝えようとするメッセージが常に冒頭から提示されるとは限らず、最初は仄めかす程度で、最後の最後で結論としてメッセージを明示するタイプもあり、なかなか聞き応えを感じさせる。また広報の場合には、社会的な事象が取り上げられている場合が多く、現代の社会・文化の勉強の側面も併せ持っている。

もっとも、その中で使われている英語はそれほど難しいものではない。口頭で伝えるという設定から、あまり複雑な構造の文は使われないし、テーマに密着した少数の専門用語が含まれている場合を除けば、全般にそれほど特殊な語彙は使用されていない。センター試験の英語【筆記】の長文が読める語彙力で十分であろう。

音声素材という面から見ると、それらのCMや広報には、アナウンサーの原稿読み上げ調のもの、著名人のスピーチ形式のもの、そして効果音をふんだんに盛り込んだドラマ仕立てのものまである。登場する話者も、たった1人だけの場合から、3人くらいで役割分担しているものまであるが、興味深いことは、非常に標準的な発音の人から、多少訛りがあったり、個人的な癖が強かったり、すこし籠った話し方をする人までを含め、1人1人が微妙に異なった響きを持った英語を話していることである。また、同じ人間が話し続けている場合でも、話す速さや発音の明晰さ、声の強弱が微妙に変化し、一本調子になることは少ない。様々な音響効果やBGMの使用により、臨場感を高める工夫も行われているが、それらが自然なノイズとなって、より現実の場面でのリスニングに近くなっている。

しかし何よりも重要であるのは、それらには学習用に資するための加工が一切なく、あくまで母語話者に対して何かを伝えるためのものであるという点であろう。それらのCMや広報の場合でも、非常にゆっくりとした、明晰で丁寧に発音される英語を耳にすることは少なくない。しかしそれは、メッセージの効果的な伝え方として選択されたものである。英語の話し方に演出があったとしても、それは聞き手の英語力(の低さ)に対する配慮のゆえではなく、より効果的にメッセージを伝えるための方策である。つまり100%自然な英語なのである。

これらCMや広報はオーセンティックな教材として利用できないだろうか。メッセージの面でも英語の面でも、比較的わかりやすいものを聞かせ、生徒が自分の力で理解できたならば、自らの英語力の向上を確認でき、より強い動機付けに結びつかないだろうか。いや、部分的にしか理解できなかったとしても、あつ少し英語ができるようになれば理解できるという感触が、今後の学習の励みとはならないだろうか。

4 CMや広報の授業での利用までの準備

インターネット上のラジオ放送のCMや広報を教材化するためには、事前の準備がいろいろと必要である。実際に授業で利用できるようになるまでの部分を少し説明しよう。

4-1 施設・環境などの整備

インターネット上のラジオ放送を受信し、その中のCMや広報の部分を録音するためには最低以下の機器が必要である。

(1) インターネットとの接続が可能なコンピュータ
常時接続で、1時間くらいは占有できる環境であることが望ましい。

(2) 録音ソフト

コンピュータのサウンドカード経由で録音するソフトである。MP3形式で保存できるタイプのものがお勧めである。私はAudiograbberというフリーウェアを使用している。

(3) 音声ファイル編集ソフト

CMや広報の部分だけを録音することは実質不可能なので、その前後の番組なども含めて録音する人が多い。録音後、不要部分をカットするためには音声ファイル編集ソフトが必要である。私はMP3 Cutterというフリーソフトを使用している。

(4) CD-RドライブとCD-Rディスクに対応したオーディオ機器

教室で再生する場合には、コンピュータよりもオーディオ機器の方が音質・音量の両面で優れている。MP3形式で録音したCMや広報は、CD-Rドライブで音楽用CDに焼き、教室ではCD-Rディスクに対応したCDプレーヤーで再生する方法をお勧めする。なお、USBメモリー内のMP3ファイルをMDに録音できるオーディオ機器が使用できるとさらに便利である。

(5) CMや広報を流すラジオ局の情報

イギリスのBBC、オーストラリアのABC、カナダのCBCでは、CMや広報が流されることはまずない。確実に、そしてできれば頻繁に、CMや広報を流す放送局を事前にいくつか見つけておくことが必要である。私が主に利用しているのは以下の放送局である。

・ KGO-AM 810 NewsTalk

(<http://www.kgoam810.com/>)

・ LBC Internet Radio (<http://www.lbc.co.uk/>)

・ WNYC-New York Public Radio

(<http://www.wnyc.org/>)

・ WLS, 890 AM - Chicago's Talk Station

(<http://www.wlsam.com/>)

4-2 教材作成の流れ

音声素材の作成

まずはCMや広報の録音からである。これだけに専念しようとする、時間的にはかなりロスがある。何か他の作業をしながらラジオ放送を流し続け、CMや広報が始まった段階で録音を始める形がむしろ効率的である。私は主に昼食を食べながらこの作業をしている。

さてCMや広報が始まった段階で、録音ソフトにて録音開始する。通常2~3のCM・広報が続けて流されるので、1つ目が始まった段階で録音を始め、2つ目以降をターゲットにする方法がお勧めである。また特定の放送局を聞き続けていると、CMに切り替わるポイントがわかってくる場合もある。

録音終了後は音声ファイル編集ソフトを使用して、余分な部分を切り落とし、また複数のCM・広報を同時に録音した場合は切り離し、それぞれ個別のファイルとして保存する。この作業は録音した音声ファイルがある程度たまった段階で集中的に行うほうが効率的であろう。

個別のファイルとして保存されたCM・広報が一

定数たまったところで音楽用CDに焼くなり、USBメモリー経由でMDに保存するなり、教室で再生するのに便利な形のメディアに記録しておく。

ハンドアウト作成

録音したCM・広報を授業で利用するためには、教材化が必要であるが、その第一歩はtranscription、つまりスクリプト作成である。これは実は意外に時間がかかる作業である。聞き取りにくい部分があると、そこだけで数分もかかってしまいかねない。また、どうしても聞き取れない部分が最後まで残る場合もある。可能ならば、ALTに協力してもらうことだろう。私の場合は、自分が100%正しく聞き取れないものは教材として取り上げないことにしている。

次は生徒の活動を企画することであるが、前にも述べたように、CM・広報の場合は伝えようとするメッセージは基本的に1つなので、そこを聞き取るような質問、つまり「何のCM?」とか「何を訴えている広報?」といった形の質問を口頭で行えば十分である。この段階では特にハンドアウトは必要ないだろう。それに続いて、もっと細部の情報を聞き取らせようとする場合でも、口頭での指示で足りるはずである。

これ以外は、授業実施者の考え方と生徒の必要性によって変わるところであるが、私の場合は先ほど作成したスクリプト中の単語を何か所か()に置き換える形で、ディクテーション用のハンドアウトを作成する。

4-3 これまでに使用した教材の特徴

実際の授業での利用方法を紹介する前に、これまでにどのようなCM・広報を利用してきたかを簡単に紹介しておこう。英字はタイトルであり、その下は「①長さ(平均発話スピード) ②主な内容 ③簡単な特徴」である。なお、それぞれのスクリプトに

関しては「資料2」を参照のこと。

Air Force Reserve

- ① 1分2秒 (145 wpm)
- ② 米国空軍予備隊の隊員募集広告
- ③ ナレーション (二人) + 効果音

Ancestroy

- ① 1分 (151 wpm)
- ② 祖先を調べるサービスのCM
- ③ ナレーション

CIT

- ① 27秒 (124 wpm)
- ② 融資会社のCM
- ③ ナレーション+BGM

Cyber Tipline

- ① 29秒 (163 wpm)
- ② インターネット上の性的誘惑者から子供を守ろうという広報
- ③ ナレーション+略語を呟きながらキーボードを叩く子供の再現音声

Discrimination Against Families With Children

- ① 32秒 (156 wpm)
- ② 子供を持つ家庭に対する住居の面での差別の廃止を訴える広報
- ③ ナレーション+電話に答える不動産屋の店員の再現音声

Everyday Choices

- ① 48秒 (151 wpm)
- ② 健康的な生活を勧める広報
- ③ ナレーション+効果音

Read With Your Children

- ① 39秒 (167 wpm)
- ② 子供と共に読書することを勧める広報
- ③ 州知事婦人のスピーチ+BGM

*なお、各CM・広報のタイトルは筆者が便宜上

つけたものである。また順序はタイトルの順であり、授業で使用した順序とは関係がない。

主な特徴としては以下の点が指摘できるだろう。

最長でも1分2秒、最短のものは27秒と、全体に短く、繰り返し聞かせても、余り長い時間を要しない。

発話スピードに関してはCITとAir Force Resesveを除けば、すべて母語話者の平均的な発話速度と考えられる150 wpmを超えている。一方もっとも速いものでも167 wpmで、それほど早口というわけでもない。なお、この発話スピードの計算は、CM・広報中の全使用語数を単純に時間で割ったものである。

145 wpmの速さとしてあるAir Force Resesveは、実は発話間のポーズがいくぶん長めに設けられており、実際のナレーションの部分だけに絞ってスピードを計算すれば、おそらく150 wpmを超えているだろう。

基本的に原稿読み上げ式だが、発話スピードの自然な変化、弱音化、強調のための発音の明晰化が随所に見られる。Ancestry以外は、みな何らかの効果音やBGMを伴っており、それらが臨場感を高めたり、自然なノイズとなったりしている。

いくつか難しい語彙を含むものもあるが、構文の面ではむしろ単純なものが多い。

5 これまでの実践

実際にどのような形でCMや広報を用いてリスニング活動を行っているかを簡単に述べよう。

5-1 平成17年度

この年度から実践を始めたわけだが、対象は2年生であり、私は1単位のリーディングの授業を担当していた。通常のリーディングの教科書を用いた英文読解の授業であったが、2学期よりレッスンの終了時を中心に、CM・広報を用いたりリスニングの活

動を実施した。年度末までに4回、加えて3学期末考査に問題として出題した分を含め、合計5つのCM・広報を生徒に聞かせた。

この年度に関しては、単純に授業の活動内容を多様化するためだけのものではなかった。リーディング中心の週一時間の授業であり、リスニングに関して、これ以外の活動はなし。あくまでも授業中の活動に変化をもたせる程度の位置付けでしかなかった。生徒達も目新しい教材と普段とは違う活動に対して興味を持って取り組んでいたと思う。もっとも、アンケート調査などの形で生徒の反応を確認することは行ってはいない。

この年度、私は同時に1年生の英語Iも担当しており、そちらの方ではもう少し計画的にリスニングの活動を授業に組み込んでいた。この学年を対象とした取組を以下に述べよう。

5-2 平成18年度以降

前年度の1年生が2年生になり、私は「リーディング」の授業の担当として引き続き指導に当たった。そして再び、CM・広報を用いたりリスニングの活動を実施した。

平素のリスニング指導

前にも述べたことだが、この学年に対しては入学当初より授業の中に定期的リスニング活動を取り上げていた。行う時期は教科書の各レッスン終了時であり、主に数研出版の「[spark]リスニング・テスト 入試レベル1」を用いていた。そして、2年生になった以降は、前年度のセンター試験の問題にも挑戦させている。

また、普段の授業の中でもClassroom Englishを多く用い、またリーディング活動中の内容理解に際しては、口頭でのQ&Aを用いたり、ハンドアウトを用いる場合でも答え合わせの際には口頭でのやり取りを重視したりと、自然な英語の聞き取りの場面

を増やしてきた。

この学年に対しては、2年時の11月から翌年の2月にかけて、「[spark]リスニング・テスト 入試レベル1」によるリスニング活動に引き続き行う形で、CM・広報を用いた活動を計4回実施した。

なお今年度も、私はこの学年の授業を担当しており、「[spark]リスニング・テスト 入試レベル2」でのリスニング活動と並行した形で、一学期中に2回実施している。

実際の授業での流れ

CM・広報を用いたリスニング活動は、基本的に「[spark]リスニング・テスト」を用いたリスニングの活動の後に、応用編として取り上げる。

「[spark]リスニング・テスト」は、生徒には比較的易し目であるので、生徒によってはこれがCMや広報を聞き取る活動のためのウォームアップにもなっている。

まずCMや広報を聞かせる前に、生徒に聞き取るべき内容を指示しておく。CMならば商品やサービスの概要であり、広報ならば中心となるメッセージである。

2回ほど続けて聞かせ、生徒に答えを求める。この際、何でも聞き取れたことを発表させていく。この段階では完全に正確な答えは出てきにくいですが、ヒントとなる語句が引き出せることは多い。このようなものは板書しておく。

さらに聞かせる前に、今度は答の鍵となる放送中の英語表現を黒板にメモしたり、答えとなる英語表現の頭文字のみを板書したりして、生徒にヒントを与え、何とか聞き取る意欲を維持させるようにする。例えばDiscrimination Against Families With Childrenの場合には D _____ A _____ F _____ W _____ C _____ のような板書をした。

この後、引き続き2～3回ほど聞かせ、1回聞かせるたびに何名かの生徒を指名し、聞き取れたこと

や考えを言わせる。通常この段階で何とか正解にまで到達できるが、どうしても出なければ教師が答えを伝える。

続いて穴埋め形式のハンドアウトでディクテーションを行う。通常は2回聞かせる間に書き取らせ、その後に答え合わせをする。完成したスクリプトを見ながら、さらにもう1回聞かせる場合もある。

都合6回前後、生徒は同じCM・広報を聞くことになる。それぞれ30秒～1分のものであるが、活動全体の所要時間は15～20分くらいであろうか。Cyber Tiplineのように、やや難しい語彙を含み、社会的な側面からの情報も補う必要までであると、20分を超えてしまうこともある。

6 生徒の反応

平成18年度末に私は、当時の2年生（現3年生）に対してアンケート調査を行った。その中には、このCM・広報を用いたリスニング活動に関わる部分も含まれていた。該当部分の質問項目と生徒の回答状況を下に引用しておく。

アンケートおよびその結果

Internet Radioの広報のListeningに関して。

No.21 難易度に関してどう思いますか。

- ①適切である ②高すぎる
③やや高い ④やや低い
⑤低すぎる ⑥何ともいえない

①	②	③	④	⑤	⑥
18.4%	21.9%	55.3%	1.8%	0%	0%

No.22 [spark]と比較して、どちらが活動として楽しかったですか。

- ①断然に「Internet Radioの広報」の方
- ②どちらかといえば「Internet Radioの広報」の方
- ③どちらかといえば[spark]の方
- ④断然に[spark]の方
- ⑤何ともいえない

①	②	③	④	⑤
31.6%	41.2%	10.5%	1.8%	14.9%

No.23 Listeningの力が着く活動であると感じましたか。

- ①はっきりと感じた
- ②多少は感じた
- ③余り感じられなかった
- ④まったく感じられなかった
- ⑤何ともいえない

①	②	③	④	⑤
9.6%	57.0%	21.9%	2.6%	8.8%

No.24 11月から始めて計4回、月1回のペースで行いましたが、回数に関してはどう思いますか。

- ①充分である
- ②もう少し多くやりたかった
- ③もう少し少ない方がよい
- ④ないほうがよい
- ⑤何ともいえない

①	②	③	④	⑤
31.6%	53.5%	0.9%	2.6%	11.4%

No.25 Internet Radioの広報のListeningに関して、何か意見・要望などがあれば、右下の回答欄に記入して下さい。

*いくつか興味深いコメントがあったが、引用は

割愛する。

分析と考察

難易度に関しては、半分以上の生徒が「やや高い」と感じながらも、7割以上の生徒が、[spark]による通常のリスニング活動よりも楽しいと感じている。つまり、難しいながらも生徒の意欲を掻き立てる活動になっていると予想できる。

他方、約3分の2の生徒が、「はっきり」または「多少」リスニングの力が着くと「感じた」と回答しているので、彼らはこのリスニング活動が学習としての有効であると認めているわけである。

そして何より、半分以上の生徒が「もう少し多く」と回答している一方で、「もう少し少ない」「ないほうがよい」の回答が合計で3.5%であるので、生徒はこの活動を肯定的に受け止めていると解釈して間違いはないだろう。

しかし、この活動を行うことで、生徒のリスニング能力が実際にどの程度向上しているのかは定かではない。そもそも、月に1回せいぜい20分足らずの活動が生徒の能力の育成にどの程度影響するのかは疑わしいところである。母語話者向けの、その意味で本物の、そして多少難しいものを聞き取ろうとし、また部分的にでも聞き取れたことで、リスニング活動に対する意識付け・動機付けの維持に寄与できる活動であると考えべきであろう。

7 教材としての問題点と今後の課題

しかし、インターネット上のラジオ放送のCM・広報を教材として使用するには、まだまだいくつかの問題点や課題が残されている。ここではそれをいくつか指摘しておきたい。

まず1つには、素材となるCMや広報の録音には、かなりの時間がかかることを覚悟しなければならない。特に意識的にCMや広報を採取しようとする場合は、ずいぶん非効率的な作業という感じがしてし

まう。何と言っても、全体の放送時間中に占めるCM・広報が流される時間の割合はごく僅かであるからである。私の場合は、何となく昼食時にInterentでラジオを聞き始め、そのうちに合間に流れるCM・広報に興味を持つようになり、いずれ何かに使えるかもしれないとの思いから録音を始め、ある程度ストックがたまってから、リスニング活動の教材としての利用を考える方向へと進んできた。

録音したCM・広報のtranscriptionも、実際には難しい作業である。いわゆるテープ起こしの作業は、母国語の場合でも決して楽しい作業とは言えない。まして、発音の癖や訛り、弱音化や口籠りなどが含まれていると、教員自身が100%正確に聞き取れない場合もある。「ALTに協力してもらおう」といっても、現実にはどの程度の協力が得られるかは未知数である。

教材としての使い方に関しても、まだ検討の余地を大きく残している。私は、中心となるメッセージを聞き取らせることに限定しているが、それは情報の聞き取り方としては非常に大雑把なやり方である。中心的なメッセージの周辺にある他の情報は無視させることになるからである。それとも、長くても時間にして1分、語数にして160語前後の英語のリスニングならば、もっとも重要な1点に集中させるだけで十分なのか。

また私は要点を聞き取らせた後には、穴埋め形式でディクテーションをしているが、この二つの活動の間にはいささかのギャップはないのだろうか。一方では極端な形でメッセージに集中させ、その後は語彙レベルでの聞き取り活動となる。それらを全体として1つのリスニング活動として考えた場合に、活動間に整合性は保たれているのだろうか。

まとめとして

インターネット上のラジオ放送中のCM・広報を用いたリスニング活動という実践を、いくつかの点

から振り返って述べてきたが、まとめとして以下のことを述べておきたい。

- ・この活動は生徒のリスニング活動に対する意欲付け・動機付けの維持・強化の面では大きな効果が期待できる。
- ・実際のリスニング能力の向上にどの程度寄与するかは、回数と難易度のバランス問題もあり、現実には不明である。
- ・CM・広報の録音から教材化までの過程は、実際には時間のかかる過程であり、これのみでリスニング活動を組み立てるには、かなりの事前の準備期間を要する。
- ・そのような現状では(市販の)リスニング教材と併用し、リスニング活動をスパイス・アップする形での使い方が現実的といえる。

まだまだ改善の余地を数多く残している実践ではあるが、私個人としては、日常的に使うどこか学習教材然とした教材以外に、よりオーセンティックな素材を教室に持ち込むことで、学習活動全体を多様化させ、時に沈滞しかねない生徒たちの学習に対する意欲や動機付けを刺激する試みとして、一定の意味と効果を持った活動であると考えている。そして、いろいろな人達が私と同じような実践を行い始め、インターネット上のラジオを聞きながら興味深いCMや広報をそれぞれに蓄積し、スクリプトと教材化案を含めた形で、インターネット上などで共有できるようになれば、その教材としての可能性はさらに広がっていくだろう。

資料1 様々な教材の音声素材の発話速度抽出調査

教材名	Lesson, Unit等	語数	時間(秒)	速度(wpm)
[spark] Level 1	Unit 9	130	63	124
	Unit 13	135	56	145
	Unit 17	317	132	144
[spark] Level 2	Unit 7	162	78	125
	Unit 11	130	55	142
	Unit 16	391	180	130
Hyper Listening Intermediate	Lesson 7	160	80	120
	Lesson 13	291	133	131
	Lesson 17	247	112	132
2007年度 センター試験	第3問B	146	52	168
	第4問B	181	74	147
Sunshine 2	Lesson 4(1)	158	68	139
	Lesson 7(1)	213	89	144
	Lesson 11(1)	169	73	139
Genius English Readings	Lesson 4(1)	239	125	115
	Lesson 7(1)	232	115	121
	Lesson 11(1)	234	124	113
Sonic Reading 4	Lesson 4	419	175	144
	Lesson 7	441	164	161
	Lesson 11	490	213	138

資料2 これまでに授業で使用したCM・広報のスク립ト

*下線部はディクテーション用のハンドアウトにおいて（ ）にした部分である。

Air Force Reserve

I've been a registered nurse for over ten years.

But in all my years of caring for patients, I never imagined I'd be taking it to this level.

I'm a flight nurse with an air medical evacuation crew in the air force reserve.

My mission is the same, it's always been to save lives.

But it takes steady hands, passion and dedication to earn your ring.

Through rapid deployment and quick thinking, we are helping people in ways I couldn't on the ground.
And each challenge is unique.

Whether transporting an injured soldier, or evacuating a civilian in need of critical care, whatever the situation, we have to be ready to get the patient to safety.

It's a part-time job but a full-time experience.

And one of many exciting careers in the air force reserve.

Call 800-257-1212, or visit us online at afreserve.com.

Air Force Reserve. Above and Beyond.

Ancestry

Do you really know your past?

Where you came from, the history behind your family and who you are.

In less than five minutes, we can help you start to find out.

At Ancestry, we help millions of people just like you connect with your family root.

From the recent past to ten generations or more.

We're so sure that we can find your family history.

We'll give you a free copy of our best-selling family tree program just for calling.

1-800-339-0021.

With one phone call you could relive the joy of your ancestor's wedding day, the hardships of their ocean voyage, their battles and more.

Ancestry works so well.

It takes just a few minutes to start your family tree.

Call us right now at 1-800-339-0021 and we'll give you a free copy of our best-selling family tree program just for calling.

1-800-339-0021.

That's 1-800-339-0021.

Call us right now, 1-800-339-0021.

CIT

Sometimes success needs to be nurtured.

Sometimes it wants to be pushed.

Sometimes success takes everything we can give and then demand more.

And sometimes all it takes is someone who sees what you see.

It's CIT

We're in the business of financing great ideas.

So you can take yours all the way to the top.

Cyber Tipline

Well, AISI.

It was NVG.

You don't know what your kids are saying online, or who they are saying it to.

A lot of times, neither do they.

Last year one in five children was sexually solicited online.

To protect your kids' online life and to get the full list of acronyms kids are using, call 1-800-The-Lost or visit cybertipline.com.

Help delete online predators.

A message from The National Center for Missing and Exploited Children and The Ad Council.

Discrimination Against Families With Children

They won't tell you it's because you have children.

Apartment Rentals, how can I help you?

Two bedrooms, sure!

Do you have any children?

Oh, two little boys, aha, and yourself, I see.

Well, you are welcome to drop by the office and fill out an application, but we don't really have two bedrooms available right now.

It's illegal to discriminate against families with children.

Housing discrimination stops when people stop putting up with it.

City of Chicago.

For more information, call 311.

Everyday Choices

Someone approaches you, and you cross to the other side of the street.

Your cell-phone is ready, the numbers for help saved on speed dial.

You lock the door behind you, once, twice, maybe three times.

Now you feel safe, secure.

You think you've made the right choices to protect yourself.

Think again!

Because if you are not making healthy choices, you could be one of the nearly two out of three women killed by cancers, diabetes, heart disease, or stroke.

So eat right, get active, don't smoke, see your doctor and live!

Learn to protect yourself from yourself.

At 1-866-399-6789, or visit us at everydaychoices.org.

A message from American Cancer Society, American Diabetes Association, American Heart Association and the Ad Council.

Read With Your Children

Did you know that children who are read to daily are twice as likely to be at the top of their class in learning and communication?

Reading to your children can even improve their math skills and self-esteem.

This is First Lady Patty Blagojevich.

As a parent, I know the challenges and pressures families face today.

Remember to take time to read with your children no matter how old they are.

You will value the quality time now and your children will reap the benefits for years to come.

資料3 主な使用ソフトとその入手先

Audiograbber (録音ソフト) : <http://www.audiograbber.com-us.net>

MP3 Cutter (音声ファイル編集ソフト) : <http://kata.hello.to/>

資料4 主なインターネット上のラジオ局のサイトと検索用サイト

ラジオ局のサイト

KGO-AM 810 NewsTalk : <http://www.kgoam810.com/>

LBC Internet Radio : <http://www.lbc.co.uk/>

WNYC - New York Public Radio : <http://www.wnyc.org/>

WLS, 890 AM - Chicago's Talk Station : <http://www.wlsam.com/>

ラジオ局の検索用サイト

News-Talk Radio Stations : http://www.journalismjobs.com/radio_links.cfm

Talk Radio Stations : <http://www.radorow.com/stations/talk.htm>